

法 説 辻

岩手県曹洞宗布教師会三分間法話

命 欠 け

遠野市・曹源寺住職

菊 池 良 行

タイトルの『命欠け』とは、私たちが、普段理解している命を懸けても構わないという『命懸け』とは違う自分の命が、あたかも手の平から滑り落ちていくようにして日々欠けて無くなっていくさまの命が欠けるという意味の『命欠け』（いのちがけ）というお話です。

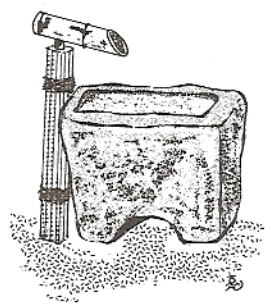
昨今、私たちの人生は男女平均で八十二年といわれています。その八十二年を日数に換算すると約三万日になります。長いと感じる人もいれば、案外短いと感じる人もいます。日数の長短の感じ方にかかわらず、ご自身の何万日かもしれない命の日数が、手の平をすべり抜け、確実に一秒一秒、一日一日と時間

の経過と共に、ひたすらに命が欠けてやがて無くなってしまう事実を、意識しながら生活している方は少ないのではないのでしょうか。

修証義第五章第三十節の中に「光陰は矢よりも速やかなり、身命は露よりも速やろし。」と示されています。は恨むべき日月なり悲しむべき形骸なり」と示されています。

「時の流れは矢よりも速く過ぎ去り、人の命は草や葉に宿る露よりもはかないもの。」うかうかと、長い年月を無駄に暮らしては、やがては恨めしい日々となり、抜け殻のようだと後悔する」という意味です。亡くなった俳優の石原裕次郎さんの歌のタイトルに

「我が人生に悔いはなし」があります。私たちが命が欠けて無くなる限られた人生を一日一日精一杯、命を懸けて生き、そして生かされて、我が人生に悔いはなしと振り返ることが出来るよう、日々精進していきたいものです。



曹洞宗岩手県宗務所
テレホン法話
☎ 0120-62-1602

心に残る
法話を
お聞き
下さい